ミニシンポジウム

水産生物におけるD型アミノ酸の分析法, 分布および生理機能^{*1}阿部 宏喜^{*2} (共立女子大学家政学部), 佐藤 実^{*3} (東北大学農学部),渡辺 勝子^{*4} (東京大学農学部)

はじめに

タンパク質の構成アミノ酸がすべてL型であることは周知のことであり, 古くはD型アミノ酸は天然には存在しないものと考えられてきた。しかしながら, 近年多くの生物にD型アミノ酸が遊離あるいは結合型として存在することが明らかにされてきている。

水産生物に関しても, 1977年にタコの脳にD-Aspが見いだされて以来, 二枚貝, 甲殻類, ウニ, ヒジキ等にD-AspおよびD-Alaが検出され, これらの生理機能および起源に興味をもたれている。しかしながら, 生理機能はもとより, 水産生物におけるD型アミノ酸の分布に関しても明らかとはいえない。

ところが最近になって, GCあるいはHPLCを用いるD, L-アミノ酸分析が可能になり, 今後水産生物のD型アミノ酸に関する研究の進展が期待できる段階に至った。

本シンポジウムはD型アミノ酸に関する現在までの知見をまとめ, 今後の発展を期して企画したものである。

水産生物におけるD型アミノ酸の

分析法, 分布および生理機能

企画責任者 阿部宏喜 (共立女大家政), 佐藤 実 (東

北大農), 渡辺勝子 (東大農)

開会の挨拶 阿部宏喜 (共立女大家政)

座長 長久英三 (北里大)

I. 分析法の最新の進歩 佐藤 実 (東北大農)
質疑

II. 水産生物における分布

座長 佐藤 実 (東北大農)

1. 軟体動物における分布

渡辺勝子 (東大農)

2. 甲殻類における分布

大熊恵美子 (共立女大家政)

質疑

III. 生理機能 座長 渡辺勝子 (東大農)

1. 海藻類におけるD-アミノ酸の生理機能

長久英三 (北里大)

2. 甲殻類におけるD-アラニンの生理機能

阿部宏喜 (共立女大家政)

質疑

IV. 総合討論 座長 阿部宏喜 (共立女大家政)

佐藤 実 (東北大農)

長久英三 (北里大)

渡辺勝子 (東大農)

閉会の挨拶

佐藤 実 (東北大農)

^{*1} Analysis, Distribution and Physiological Function of D-Amino Acids in Marine Organisms.

^{*2} Hiroki Abe (Department of Food Science and Nutrition, Kyoritsu Women's University, Hachioji, Tokyo 193, Japan).

^{*3} Minoru Sato (Laboratory of Marine Biochemistry, Faculty of Agriculture, Tohoku University, Sendai 981, Japan).

^{*4} Katsuko Watanabe (Laboratory of Marine Biochemistry, Faculty of Agriculture, The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo 113, Japan).